

じゃ けつ ざん こ ふん
蛇穴山古墳

【国】

所在地 前橋市総社町総社1587-2
MAP P.64 B-3
関連施設 前橋市総社歴史資料館
MAP P.64 B-3



【古墳全景(南から)】



【石室入口】



【空から見た古墳(昭和58年撮影)】



前橋市総社町にある、7世紀末(飛鳥時代)の大型方墳。墳丘は一辺約43m、高さ6.5mで、2009年(平成21年)の発掘調査で二重の堀が確認され、全体では一辺82mの規模になることがわかった。「総社古墳群」の中では宝塔山古墳の次に造られ、この蛇穴山古墳が最後に造られた。横穴式石室だが、羨道が無く、いきなり玄室になる非常に珍しい造り。玄室は長さ3m、幅2.6m、高さ1.8m。

近隣には「山王廃寺」が7世紀後半に建てられた。奈良時代になると南方約2kmに上野国の役所である「国府」が、南西約2kmには国営の大寺院である「上野国分寺」が建てられるなど、この周辺は古代上野の中心となっていた。

考えてみよう!

▶ 壁画が描かれている古墳を調べ、どんなものが描かれているか調べてみよう

ヒント 描いた人、描かせた人の「願い」がこめられている絵だ。



ほかに竜や虎などを描いている古墳もあるよっ☆

【高松塚古墳(奈良県)西壁女子群像】

Point 1 県内最後の大型古墳

畿内では前方後円墳から大型方墳、最後に八角形墳に移行する。総社古墳群は県内で唯一、前方後円墳のあと大型方墳が3基続いた古墳群だ。そして、蛇穴山古墳は、県内で最後に造られた大型方墳なのだ。



Point 2 最先端の石材加工技術

玄室は左右壁と奥壁、天井をそれぞれ巨石1石で造っている。3m以上の石の表面にわずかなふくらみをもたせて磨き、角を削って組み合わせる念の入れ方。入口の石の加工も非常に精巧で、当時の最先端技術を駆使。



Point 3 石室前の広場

蛇穴山古墳は石室入口前に八の字形に開く部分がある。宝塔山古墳では直角に区切られている。このような石室前の広場を「前庭部」といい、お供え物をしてお祈りをささげた場所と考えられている。



【石室入口】